

～人を豊かに、地球を美しく～

貴金属・環境・食品分野のソリューション提供企業

第73期 2022年3月期第2四半期

決算説明



2021年11月25日

— お問合せ先 —

執行役員IR部長 田中善則

TEL : (03) 5381-0728

FAX : (03) 3349-0867

<https://www.matsuda-sangyo.co.jp/>



決算の概要

2022年3月期 第2四半期



○ 連結業績 (2022年3月期/上期)

単位：億円

	21/3期上期 (前期)	22/3期上期 (当期)	前年同期比 増減(率)		21/3期通期 (前期)	22/3期通期 (当期予想)	前期比 増減予想(率)	
売上高	1,116	1,360	+243	+21.8%	2,315	2,600	+284	+12.3%
営業利益	36	72	+36	+98.1%	80	122	+41	+51.8%
営業利益率	3.3%	5.3%	+2.0%pt	—	3.5%	4.7%	+1.2%pt	—
経常利益	36	78	+41	+112.7%	83	130	+46	+55.3%
税引前利益	40	78	+38	+94.4%	87	—	—	—
四半期純利益	27	54	+27	+99.9%	60	91	+30	+49.2%

- ・ 2022年3月期上期の業績は、貴金属関連事業、食品関連事業ともに取扱数量が想定を上回り前年同期比増収増益を達成。
- ・ 上期の売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益は、過去最高の実績。
- ・ 通期の業績予想は、上期の増収増益等を踏まえ、前回発表予想から上方修正。

(注) 2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用し、売上高は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

セグメント別の業績（2022年3月期/上期）

貴金属関連事業

※セグメント別売上は外部売上高を使用しております。

単位：億円

	21/3期上期 (前期)			22/3期上期 (当期)			前年同期比増減	
	1 Q	2 Q	累計	1 Q	2 Q	累計		
売上高	337	392	730	497	469	967	+236	+32.4%
営業利益	13	19	32	34	24	59	+26	+80.7%
営業利益率	3.9%	4.9%	4.5%	6.9%	5.3%	6.1%	+1.6%pt	—

- ・売上高は、前年同期比32.4%増収。営業利益は、前年同期比80.7%増益。
- ・電子部品デバイス分野の生産活動が回復傾向により、貴金属リサイクル取扱量及び金製品・銀製品等の販売量が増加。
- ・全体的な貴金属相場が上昇。
- ・産業廃棄物の処理は、処理受託が増加。

(注) 2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用により、従来の方法に比べて、売上高は44億円減少、営業利益は1億円減少しております。

セグメント別の業績（2022年3月期/上期）

食品関連事業

※セグメント別売上は外部売上高を使用しております。

単位：億円

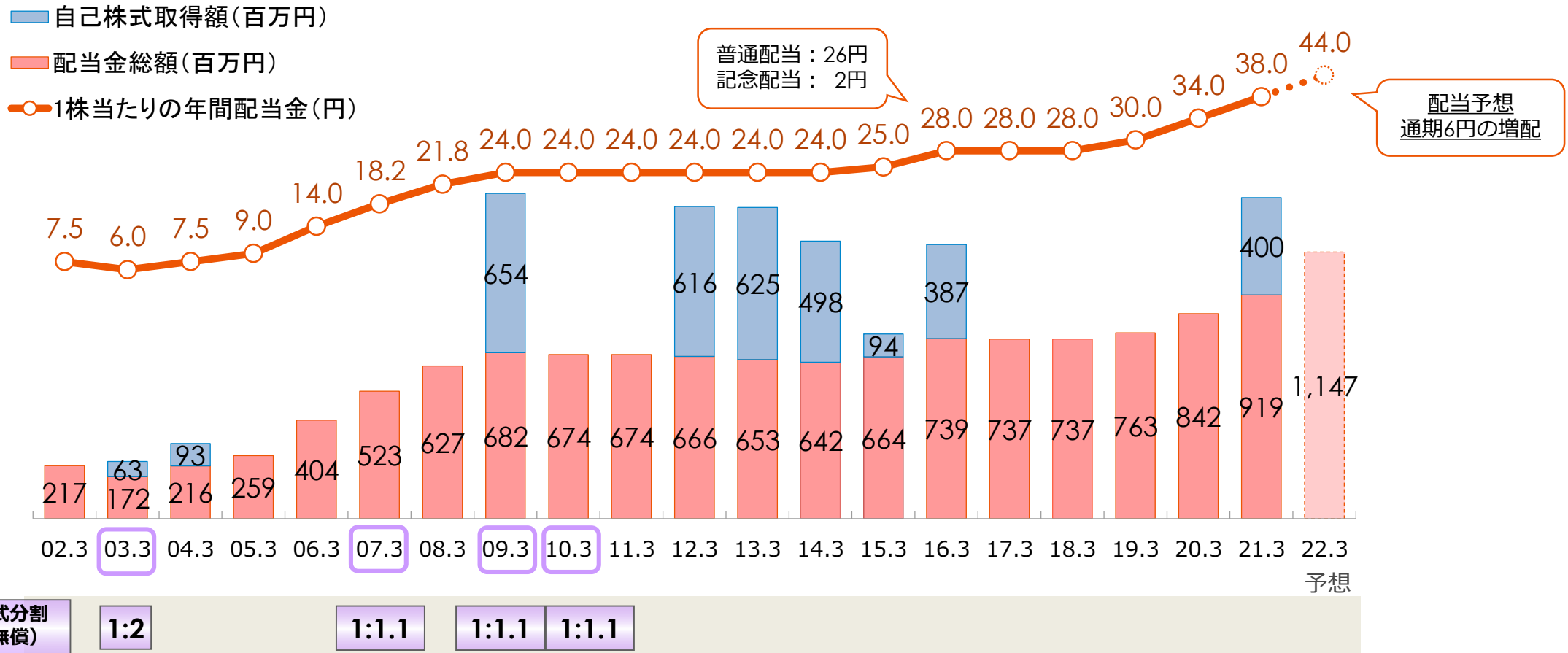
	21/3期上期 (前期)			22/3期上期 (当期)			前年同期比増減	
	1Q	2Q	累計	1Q	2Q	累計		
売上高	197	189	386	203	189	393	+6	+1.7%
営業利益	2	1	4	7	5	13	+9	+239.7%
営業利益率	1.5%	0.5%	1.0%	3.8%	3.1%	3.5%	+2.5%pt	-

- ・売上高は、前年同期比1.7%増益。営業利益は、前年同期比239.7%増益。
- ・業務用食品の需要低下や資源価格の上昇により、厳しい市場環境。
- ・多様化する顧客ニーズに応えた商品開拓と安全・安心な商品の安定供給により水産品、畜産品、農産品の販売数量の増加。

(注) 2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用により、従来の方法に比べて、売上高は43億円減少、営業利益に影響はありません。

株主還元

成長投資のための内部留保とのバランスを考慮しつつ、株主様への安定かつ持続的な配当を実施する事により、株主様の期待に応えてまいります。
 なお、配当については、通期で6円増配の44円を予想しており、4期連続の増配となります。



(注) 1株当たりの年間配当金は、株式分割の影響を補正しています。

- 連結貸借対照表
- キャッシュ・フロー計算書
- セグメント別の売上高、営業利益
- 通期の業績予想
- 設備投資の状況



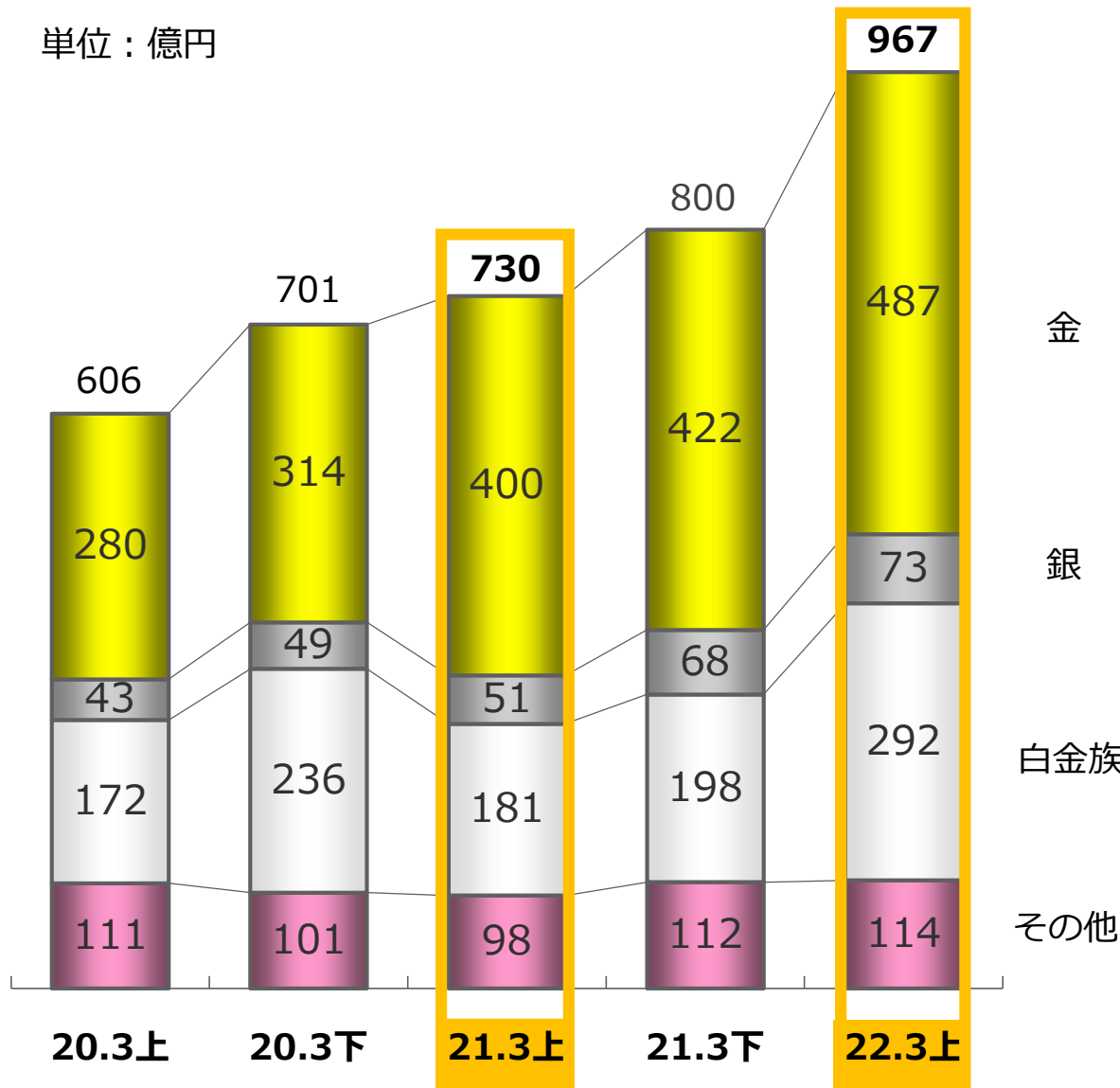
○ 連結貸借対照表・キャッシュ・フロー計算書

単位：億円

(連結)	21.3期末	21.9期末	増減	主な増減要因
流動資産	764	775	+11	現預金+23、受取手形/売掛金+7、未収入金+7、その他流動資産+10、棚卸資産▲38
固定資産	277	279	+1	新規設備等
資産合計	1,042	1,055	+12	
流動負債	293	248	▲ 44	短期借入金▲36
固定負債	93	85	▲ 7	
うち有利子負債	172	127	▲ 45	
負債合計	386	334	▲ 52	
純資産合計	656	721	+65	
負債純資産合計	1,042	1,055	+12	
自己資本比率	62.8%	68.2%	-	
	20.9期	21.9期	増減	
営業キャッシュ・フロー	45	84	+39	
投資キャッシュ・フロー	▲ 16	▲ 11	+4	
フリーキャッシュ・フロー	28	72	+43	

品目別売上高の推移 <貴金属関連事業>

単位：億円



売上高： 236億円 増加

前年同期比増減要因

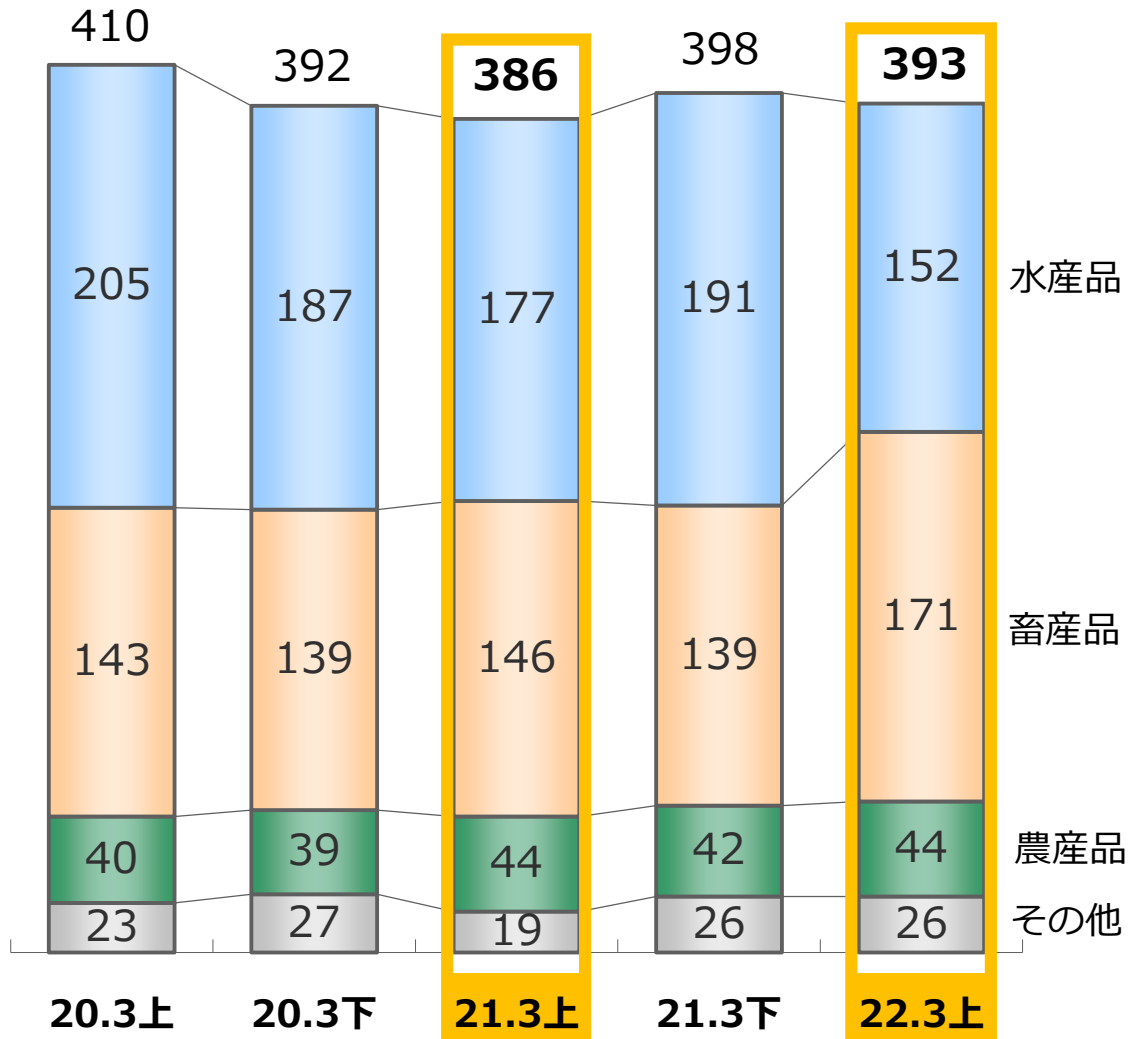
- 金製品は、販売数量増加・単価上昇により売上増加。
- 銀製品は、販売数量増加・単価上昇により売上増加。
- 白金族製品は、単価上昇により売上増加。

製品
・貴金属地金
・めっき用化成品等

(注) 2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用により、従来の方法に比べて、売上高は44億円減少しております。

品目別売上高の推移 <食品関連事業>

単位：億円



売上高：6億円 増加

前年同期比増減要因

水産品
すりみ
イカ、エビ等

○水産品は、すりみの販売数量増加・単価上昇、その他水産品は販売数量増加、単価下落。

畜産品
鶏肉、豚肉、牛肉、
鶏卵 等

○畜産品は、畜肉系の販売数量増加・単価下落、鶏卵は販売数量増加・単価上昇。

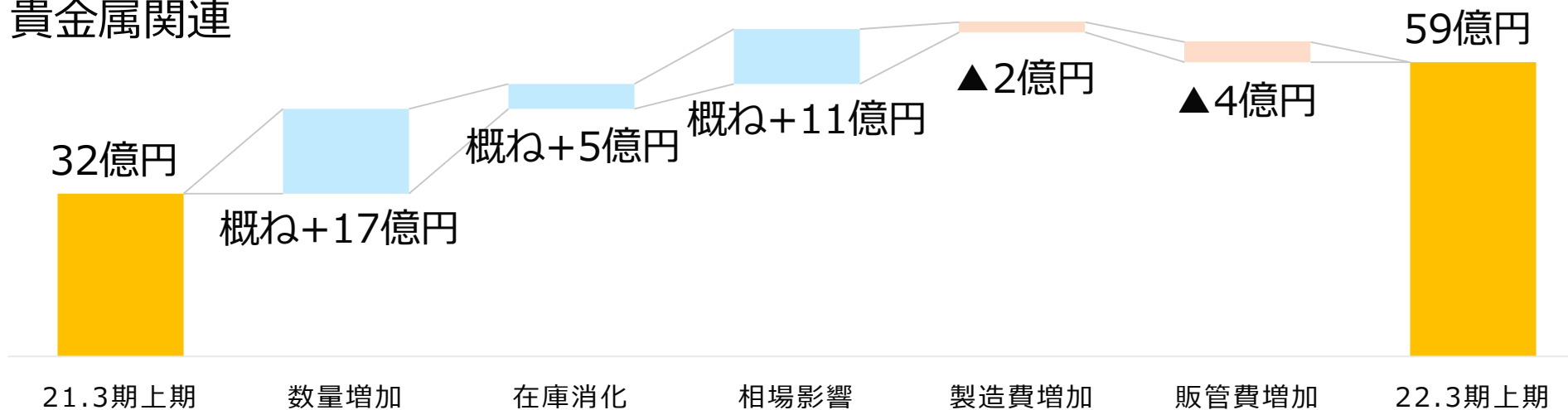
農産品
冷凍野菜、乾燥野菜等

○農産品は、販売数量増加・単価は僅かに下落。

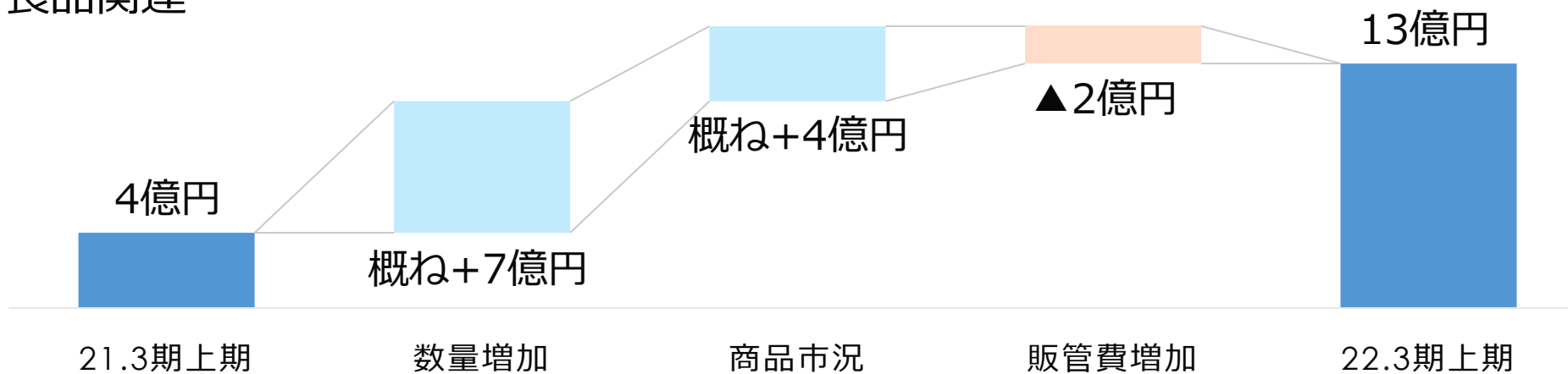
(注) 2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用により、従来の方法に比べて、売上高は43億円減少しております。

営業利益の概要

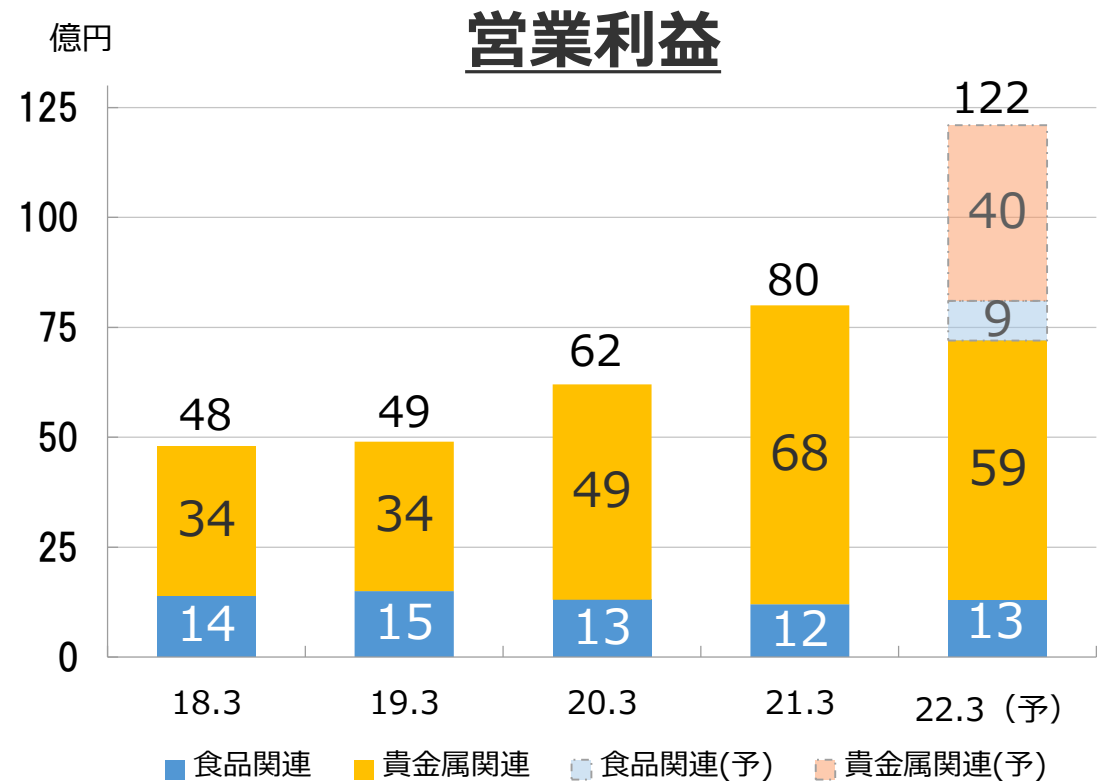
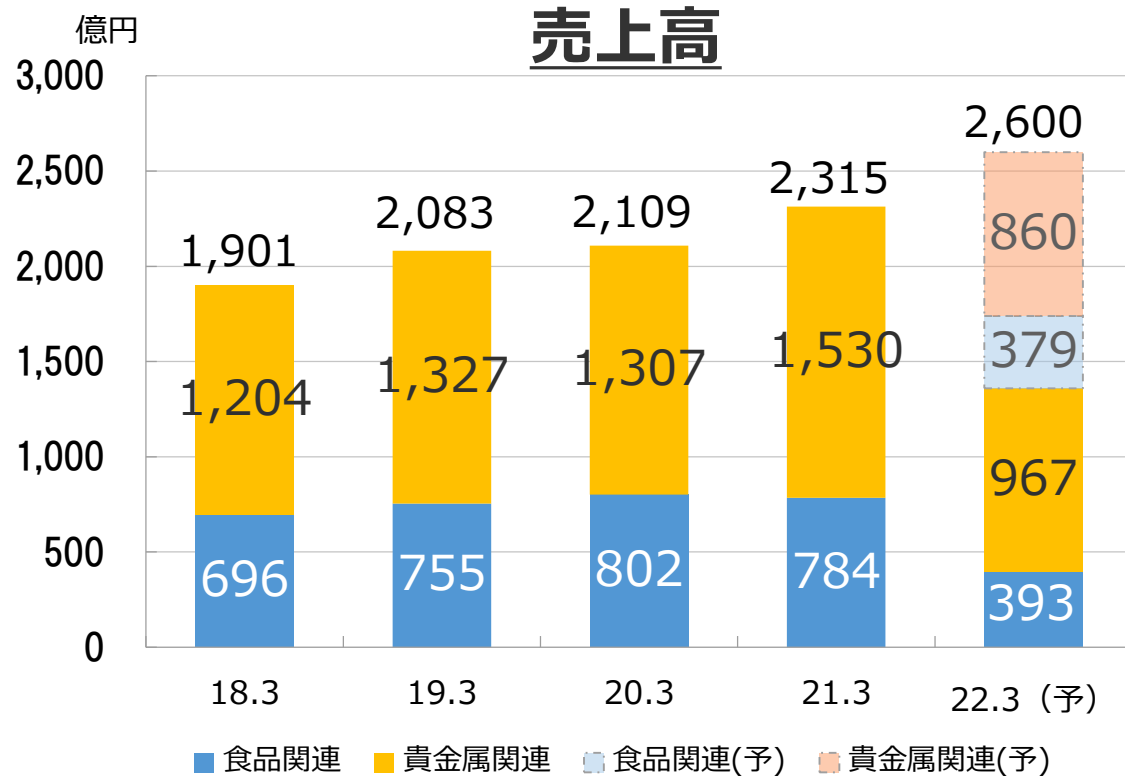
■ 貴金属関連



■ 食品関連



連結決算の業績推移と2022年3月期通期予想

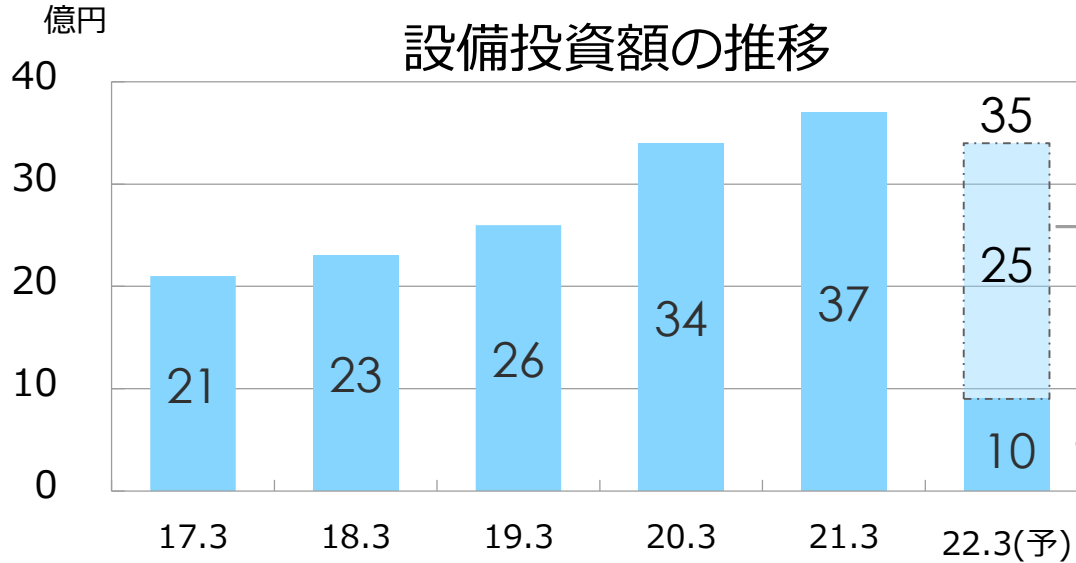


2022年3月期通期見通しを上方修正

2022年3月期上期において、両事業ともに取扱数量が想定を上回ったことや、貴金属相場の上昇の影響、食品関連事業における一部商品の市況の好転に伴う価格上昇により、業績が予想を上回ったことと、下期におけるリスク等も考慮した上、通期連結業績予想を上方修正。

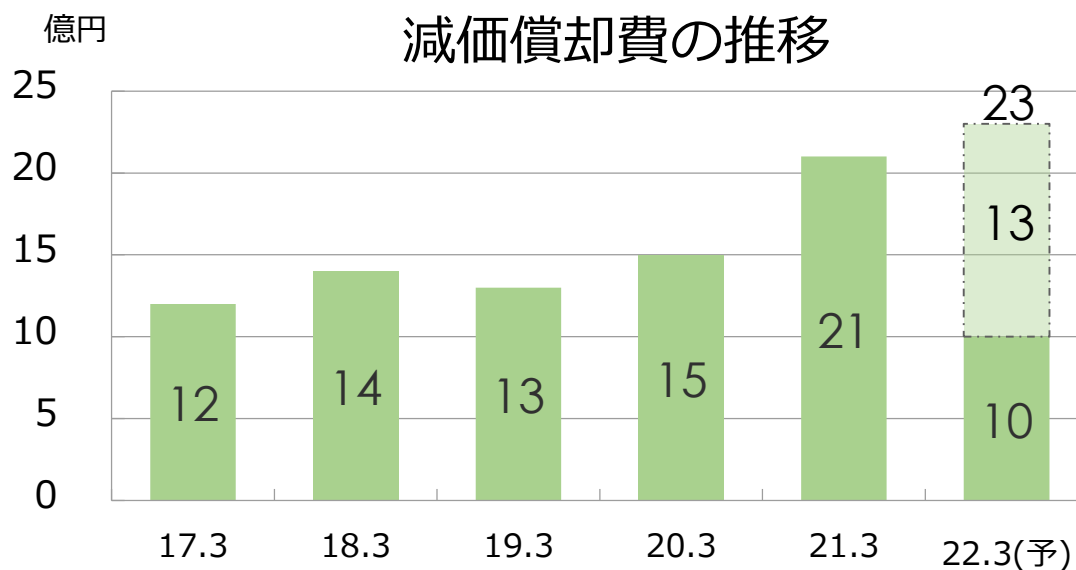
(注) 2022年3月期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

設備投資の状況



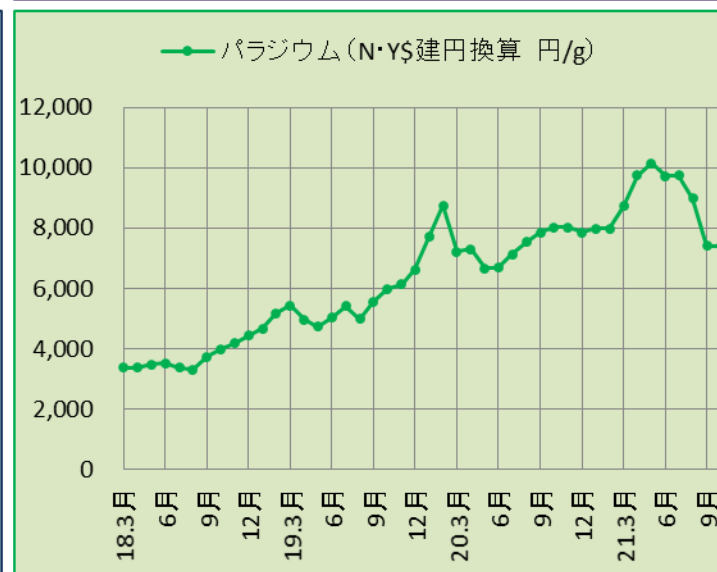
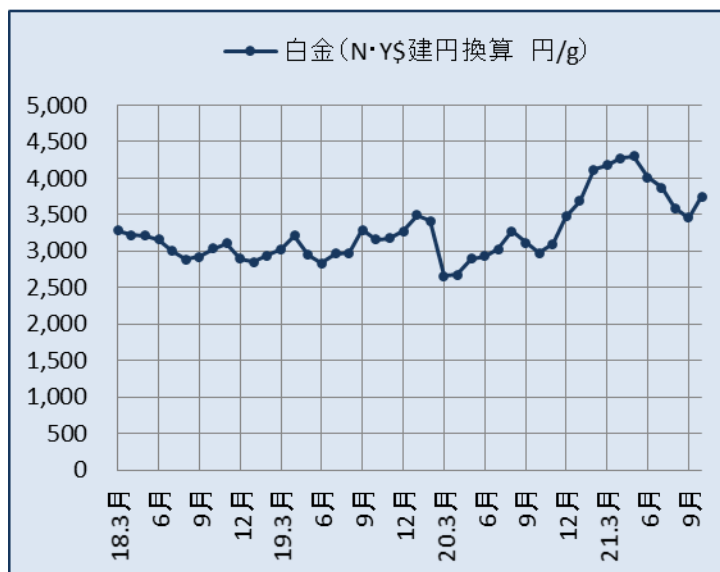
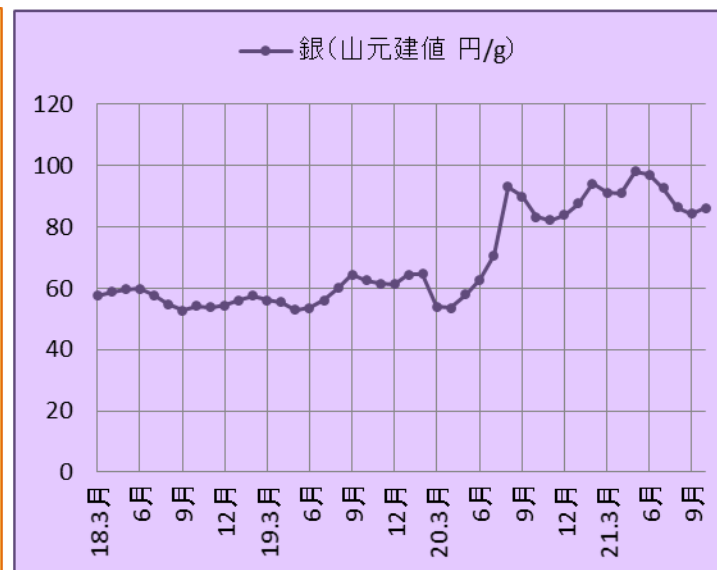
主な設備投資予定
 22.3期下期
 製錬環境処理設備・拠点拡充等 25億円

主な設備投資実績
 22.3期上期
 製錬環境処理設備等 10億円





(ご参考) 貴金属相場の推移





弊社HP **松田産業** 検索 <https://www.matsuda-sangyo.co.jp/index.html>

本資料は弊社についてご理解を深めていただくことを目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の掲載内容は、現在までにプレスリリース等を行った各種資料に基づいて作成しておりますが、掲載内容の正確性、完全性、相当性、その他一切について何ら責任を追うものではありません。

また、掲載されている文章・グラフなどの欠落・誤謬などにつきましては、その責任を負いかねますのでご了承ください。

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであります。将来の業績は、経営環境の変化等に伴い、目標と異なる可能性があることにご留意ください。